

●第18回 院内学会 優秀演題表彰

令和5年12月4日(月)

第18回目となる院内学会を今年もポスター形式で開催しました。4演題が最優秀賞などに選ばれ、朝礼にて表彰されました。その内の2演題は日本慢性期医療学会にて発表した演題でした。職員からは、「ポスターの作り方が年々上手くなり、分かりやすかった。」「コロナ禍での制限が緩和されていく中、何かを始めようとする気持ちが伝わってくる院内学会だったと思う。」「チームとして、患者様・ご家族に寄り添っていく意識を共有することが大切だと思った。」「部署や家庭でも参考になることがあった。」など、多くの意見が寄せられました。

教育委員会



●第3回 圭良会フォトコンテスト 表彰

令和6年1月4日(木)

今年も圭良会の職員を対象にフォトコンテストを開催しました。仕事での姿とは違った、プライベートでの一面を垣間見る機会となりました。入選作品については、外来の掲示板にて掲示していますので、是非ご覧ください。

ハッピー会



●コードブルー訓練を実施

令和5年11月2日(木)

事前に周知のない、いわゆる抜き打ちのコードブルー訓練を行いました。医師2名の指導のもと緊迫感のある訓練となりましたが、それぞれ決められている役割をスムーズにこなすことができました。心臓マッサージの手技も行い、有意義な訓練となりました。

看護部

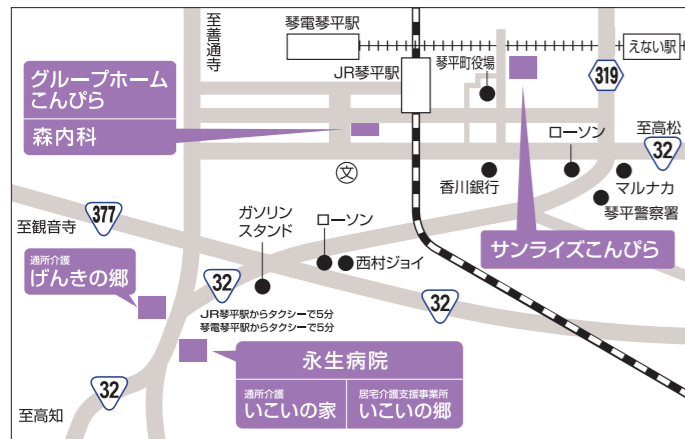


【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の分類も引き下げられ、以前の日常を取り戻そうとする中、昨年秋よりインフルエンザ等の流行もあり、まだまだ感染対策などが必要な状況が続いています。当院では、制限付きではありますが面会をはじめ、季節のイベント等も少しずつ開催することができています。

今年は昨年よりも更に皆様の笑顔が見られるよう、積極的に地域医療に取り組んでまいりますので何卒よろしくお願い致します。



永生病院 130床(一般病棟 40床・介護医療院 90床)

永生病院広報誌「ゆるめき」第74号
発行元：医療法人圭良会 永生病院
編集者：医療サービス改善委員会
住所：〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田221-3
TEL:0877-73-3300
FAX:0877-73-3202
永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日:令和6年1月15日

医療法人圭良会

- 永生病院 香川県仲多度郡まんのう町買田221-3 Tel 0877-73-3300
- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- げんきの郷 (通所介護) 香川県仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811
- 森内科 香川県仲多度郡琴平町1167 Tel 0877-73-4188
- グループホームこんびら (認知症対応型共同生活介護) Tel 0877-73-0811
- サンライズこんびら (小規模多機能型居宅介護) 香川県仲多度郡琴平町権井字池田451番地1 Tel 0877-58-8600

永 生 病 院 だ よ り

季刊 2024 冬号 vol. 74

ゆるめき

【理事長のあいさつ】

2024年辰年

【部署紹介】
透析室

【行事報告&お知らせ】

第31回
日本慢性期医療学会
in大阪に参加

第18回 院内学会 優秀演題表彰
フォトコンテスト

コードブルー訓練を実施

【編集後記】

■病院理念

信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

■基本方針

良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

■患者の権利章典

- 1. 医療を受ける権利
- 2. 自己決定権
- 3. 知る権利
- 4. プライバシーに関する権利
- 5. 学習する権利
- 6. 参加と協同



KEIRYOKAI

● 理事長のあいさつ

2024年辰年

昨年は地球温暖化のためか冬の訪れが遅く、またコロナ禍が終わり、社会の動きが変化したせいか、誰もが1年の経過を早く感じました。

今年2024年の干支は「甲辰(きのえたつ)」であり、辰は「振るう」という文字に由来し、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表わしています。過去の辰年をみてみますと、1964年は東京オリンピックが開催、世界初の高速鉄道「東海道新幹線」が開業、1988年は瀬戸大橋が竣工しています。2024年も活力のある年になることを期待します。

インターネットの普及がすすみ、便利になった社会ではありますが、メディアをとりまく環境が大きく変化し、「フェイクニュース」「炎上」などのことばがネットの世界を中心にしばしば取りざたされます。以前は、テレビ、新聞を通して、幅広い情報に接触していましたが、インターネットでは、自分で情報を取捨選択でき、無意識に自分にとって興味のないものを排除でき、その結果偏った情報を信じてしまう可能性があります。簡単に情報が手に入る現代では、情報の質を見極める能力が求められ、これを「メディアリテラシー」と呼び、小学校のカリキュラムにも導入されているようで、小さい頃からメディアリテラシーを身に着ける必要性があるとされています。簡単に手に入った真偽が定かでない情報について、自分の頭の中で考えることなく鵜呑みにし、さらには他者へ伝えてしまうという無責任な行動もおこります。

社会学部砂川浩慶教授はこれに対応するため下記の3つの視点をあげています。

- 1) メディア環境は急速に変化している
- 2) 情報を疑うことがメディアリテラシーの向上につながる
- 3) 現実世界での実体験が人をつくる

一つのニュースを発信するためには、どれだけのエビデンスが必要なのか、ということを実感することで、情報に対する態度が大きく変容すると砂川教授は教え

られています。また、情報過多により優先順位の判断を誤ったり、周囲のことに心をうばわれ、一つのこと集中できなくなるなどの弊害もあります。

昨年、世界の感染症対策をリードするグローバルファンドという国際機関で活躍している馬淵氏が東京大学入学式で述べた祝辞が学生の間で評判となりました。祝辞の最後のことばとして、パナソニック創業者の経営の神様と言われる松下幸之助の「道」という詩の一部を引用されましたが、自分の選んだ道を突き進んでいくことの大切さがこめられていますので、紹介いたします。

“自分には自分に与えられた道がある。
 どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。
 自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがいのないこの道。
 他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道はすこしもひらけない。
 道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。
 心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
 それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる、深い喜びも生まれてくる。”

馬淵氏は、大切なことは「環境が人を作る」ということであると述べられましたが、これは若者に限らず大切なことと思われま

す。コロナ禍は医療機関にとっては、厳しい時期でありましたが、コロナ禍において学んだことを糧とし、新たな気持ちで地域医療に邁進してまいります。



理事長 森 伊津子

● 第31回 日本慢性期医療学会in大阪 に参加

令和5年10月19日(木)~20日(金)

『超少子高齢化時代と慢性期医療~ Well Beingを目指した予防という役割~』というテーマの基、当院は2演題の発表をしました。『頸髄損傷により四肢不全麻痺を呈した入所者のQOL向上を目指して~「スマホで妻とLINEがしたい」~』は、ポスターセッションでの発表で緊張しましたが良い経験になりました。

『両側慢性硬膜下血腫を呈し、継続的な訓練を経て改善がみられた症例~「100歳、まだまだ頑張ります。~』では、寝たきり状態の患者様が介護医療院にて長期的に訓練を行い、驚くほどの回復力を見せ、ADL動作の一部改善がみられたという発表で、「学んだことを患者様に還元していきたい。」と業務に対する意欲がさらに向上しました。 介護医療院 作業療法士



部署紹介

【透析室】

当院の透析室は、21床のベッドを有しており、外来透析ならびに入院透析の受け入れを行っています。安全で最適な透析が行えるよう、腎臓内科、泌尿器科の医師をはじめ、経験豊富な看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士など多職種が連携し、チーム医療で取り組んでいます。定期の血液検査やCT・MRIをはじめとした画像評価、循環器専門医による心エコー検査や下肢の血流評価、透析スタッフによるフットケア、管理栄養士による栄養指導などを行っています。当院透析室の一番の特徴は、この地域には貴重な、入院にも対応している点です。様々な理由のため入院継続が必要な方もいらっしゃると思いますので、患者様をはじめ医療機関の方もお気軽にご相談ください。



バスキュラーアクセスの管理

長期間透析を行っているとうバスキュラーアクセス(特にシャント)のトラブルが問題となってきます。当院では複数の専門施設で研修するなどし、臨床検査技師によるエコー検査で血流や形態の詳細な評価が可能となり、シャントトラブルを早期に発見して専門医の治療へつなぐことができるようになりました。必要があれば血管拡張術(PTA)を行ったり、他院へバスキュラーアクセス作製の紹介を行ったりしています。



▲シャントエコー



血管拡張術(PTA)▶

栄養管理

1日3回の食事は合併症予防にとっても重要です。担当医からの依頼あるいは患者様・ご家族様から希望があれば管理栄養士が栄養指導を行います。入院中の患者様で栄養が不十分な場合には、医師・看護師・管理栄養士などで編成される栄養サポートチーム(NST)がカンファレンスを行い、病状、嗜好、嚥下機能を考慮した食事を提供します。外来透析の患者様で食事を希望する場合は、透析食(有料)を提供することができます。



栄養指導

透析日・時間

【透析時間表】

※◎の付いた日が治療日です。

		月	火	水	木	金	土	日
透析(日中)	8:30~	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
夜間透析	~22:00	◎		◎		◎		

日中仕事をされている方のために月・水・金は夜間透析も行っています。

また出張・旅行・帰省などで近辺においでになった患者様の臨時透析にも対応しています。希望される透析日の1週間前までに電話にて直接お問い合わせください。

透析は一生付き合っていく治療です。スタッフ一同、患者様ひとりひとりに寄り添い、安全で最適な透析が行えるよう全力を尽くします。いつでもご相談ください。

送迎

毎回の通院透析に不自由を感じていらっしゃる方には、送迎サービスを行っています。現在、まんのう町、琴平町、三豊市(財田町・山本町・高瀬町)、善通寺市を対象地域としていますが、それ以外の地域の方もご相談に応じます。

